

平成 27 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」
成果報告書

団体名

和歌山県教育委員会

I 概要

1 事業の概要

就学指導段階における保護者、本人への情報提供の在り方や、個別の教育支援計画の活用に向けた作成プロセスの検討を進め、保育所、幼稚園から就学指導段階、また小学校段階へのスムーズなつながりが実現できるよう、前年度に引き続き紀の川市を推進指定地域とし、実践的研究を行った。また、推進指定地域での研究成果を踏まえ、早期からの就学相談や就学指導時における本人・保護者への十分な情報提供のあり方や、「つなぎ愛シート（個別の教育支援計画）」（以下、つなぎ愛シートという。）の活用促進とその情報を適切に引き継ぐためのルール等、各市町村教育委員会に対する提言内容の検討を行った。

① 早期支援コーディネーターの配置と役割

推進指定地域では、早期支援コーディネーターを 2 名配置した。管内すべての小学校における就学時健康診断や就学児が参加する小学校での交流会への参加、保育所、保育園訪問、個別の就学相談会を企画し、支援を必要とする幼児の特性の理解等、実態把握に努めた。

新たな取組としては、つなぎ愛シートを作成し本年度就学（小学校 1 年）に至った児童について、フォローアップ巡回訪問を行い、就学前段階で想定した合理的配慮の内容等の確認と当該学校への助言を行った。

② つなぎ愛シートの作成・活用

推進指定地域では、前年度に引き続き、保護者の協力を得て、合理的配慮の記載事項等を踏まえたつなぎ愛シートを就学指導対象児全員に作成するとともに、就学先の学校では、学校長を中心に、必要となる合理的配慮への共通理解を目的とした懇談会を実施し、保護者との合意形成を図った。また、つなぎ愛シートの作成を前年度に行った新入学児童の保護者へアンケート調査を実施し、同シート活用に向けた期待や課題等について意見聴取を行った。

さらに、平成 28 年度から特別支援学校全校において、つなぎ愛シートが活用できるよう、特別支援学校版様式の策定を行うとともに、普及啓発リーフレット（保護者向け、教員向け）もあわせて制作した。

③ 普及啓発・研修

県・市レベルでは、私立を含む幼稚園・保育所等職員を対象とした特別支援教育研修や啓発セミナーの開催、聴覚支援体制啓発リーフレットの作成に取り組む等、早期からの一貫した就学支援の重要性について理解啓発活動を行った。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

- ・ 推進指定地域での早期支援コーディネーターの配置・活動を通して、それぞれの学びの場の紹介を提供される教育内容とともに丁寧に保護者に説明していくことの重要性が改めて確認された。人材配置については各市町村教育委員会で対応が異なるところであるが、本事業で確認された早期支援コーディネーターの役割や期待される効果、大切にすべきポイント等については、県教育委員会主催の就学指導地方別協議会の機会等を活用し、引き続き普及啓発に努める。
- ・ 推進指定地域での保護者アンケート調査から、つなぎ愛シート活用への期待を寄せる声が多数得られたが、合理的配慮の内容の評価や一人一人の子供にとって欠かすことのできない支援内容等が確実に引き継がれていく仕組みの定着が今後の課題でもある。全ての特別支援学校が平成 28 年度からスタートさせるつなぎ愛シートの作成・活用を通して、全県的な取組としての機運を高めるとともに、特別支援学校のセンター的機能を発揮する中で、推進指定地域をはじめ、全ての市町村教育委員会に対してつなぎ愛シート作成趣旨等の理解啓発に努める。
- ・ つなぎ愛シートの作成目的や手順、障害のある乳幼児への気づきと支援についての理解が深められるよう、平成 28 年度以降も（県）福祉保健政策局子ども未来課と連携し、私立を含む幼稚園・保育園・保育所職員等対象の特別支援教育研修を引き続き計画する。